

「マンガで考える “みんなのキモチ” これって、いじめ？」

授業展開例【5】（45 分）

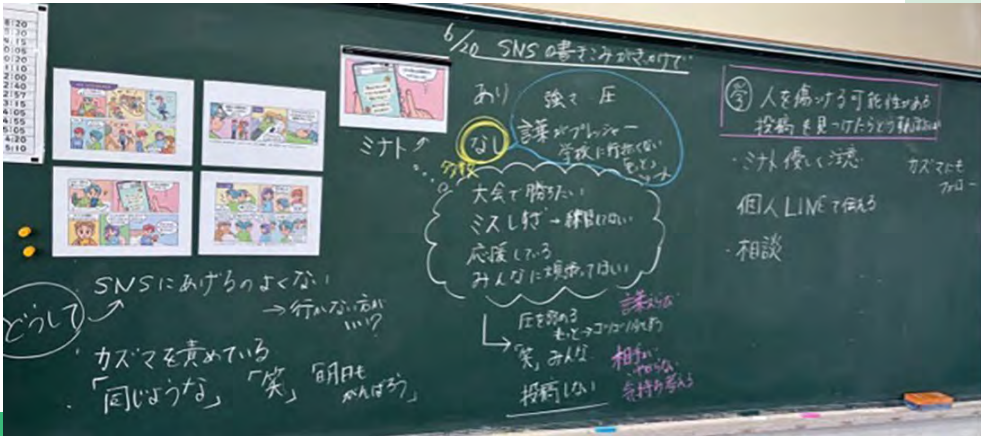
テーマ	「SNS の書きこみがきっかけで」（5 巻『ネット・スマホ』より）	市原市立石塚小学校 5 年 1 組・2 組 下大澤翔吾先生 2025 年 6 月 20 日
-----	-----------------------------------	---

題材の選定の理由

- ・当初は、オンラインゲームに関するトラブルを題材に授業を考えていた。しかし、実際にはオンラインゲームをめぐるトラブルが身近で起きていなかったこと、また児童の多くがそのような経験をしていなかったことから、授業計画を見直すことにした。
- ・スマートフォンを持つ小学生がふえるなか、昨今は小学生でも LINE などのストーリー機能を手軽に扱えるようになってきた。ストーリー機能は Instagram や TikTok などにも広く存在し、今後子どもたちが使用する機会が増えると考えられる。また、不適切な投稿をきっかけとしたトラブルの増加も懸念されるため、今回のテーマとして取り上げることにした。
- ・さらに、今回は投稿者である主人公に焦点を当てるのではなく、その投稿を「見る側」の友達に着目させることで、いじめにおける傍観者の立場に気づかせる「脱・傍観者教育」を意識して授業を構成した。

授業内容

- ①マンガを大型 TV に映しながら見せる
- ②ミナトの投稿はありか、なしかアンケート投票する（理由も記入）
ミナトはどのような気持ちで投稿したのかも考える
- ③投稿するときに気をつけることについておさえる（簡単に）
- ⑤この物語で気になることはないか考える
※投稿を見ている友達がなにもアクションを起こしていないことに注目させる
個人→交流→提出
- ⑥人を傷つける可能性がある投稿を見つけた場合どうすればよいか考える
- ⑦感想を書く



授業の様子

- ・ストーリー機能を利用している児童は、学年全体でみるとおよそ半数弱であった。ミナトの投稿に対して「これはなしだ」と答えた児童は、ほぼ全員にのぼった。
- ・⑤の場面では、教師が意図していた「傍観者になっていること」について、片方のクラスでは「見ている人たちは何もしていない！」と気づく児童がいた。一方、もう一方のクラスではその点に気づくのが難しく、授業者が気になるコマを提示することで、少しずつ気づき始める様子が見られた。ただし、両クラスとも「このまま見ているだけではよくない」ということには、共通して気づけていたようだった。
- ・⑥の場面では、5 年生ながらに一生懸命考えようとする姿が見られた（写真参照）。「誰かに相談する」という意見も出され、授業者からは「何かあったときにはスクリーンショットを残しておくことも大切だ」と伝えた。（オクリンクプラス画像）

・自分だったらミナトに次の日の学校で直接言う。
・個人ラインをしているならみたときに個人ラインで「なんであんな投稿したの」と聞く。
・お母さんに言ってどうすればいいかってきいてそうなんする。

みなとさんにつたえて、いしょにあやまりに行く。

みなとが投稿していて、かずまがいやがるなとおもった投稿だったらみなとにいて、書き直すか、投稿を消せるところまでです!!
みなとにきょせついう

コメントでこれはいけないよとかいて消してもらう
そしたら明日かずまに謝ってゆるしてもらってなかよくやる

注意など本人にすぐ「消して」など少しでも強く言って色々言うそして言われた人にも自分から大丈夫だよ、とか励ます言葉を言ってあげる。
お母さんなどにも言う。

わざわざSNSにおくらくなくてもいいとおもった。頑張ってほしいと、思ったら、みなとと、かずまだけのところにおくる。その送るときもちゃんと、相手が嫌だと思わないとうこうを、する。
僕が送るとしたらみんな明日みんな、がんばろう!とおくります。

優しい声掛けで投稿する
投稿を消せるところまで消す

(1)すでにSNSにあげられているのなら、「その投稿は、ミスしている本人にとっては、プレッシャーになっているかもしれないよ。」とコメントに書いておいたりする。
(2)謝る
(3)ミナトのLINEにいう。

SNSにあげてるのを見つけて消しても保存してたりとか保存してなくてもその人の記憶とかには残ってるから気持ち考えてという

投稿を見つけた時にそれが友達だったらもう遅いけどラインや電話で教えてあげて次の日にもし傷ついてしまった人にごめんなさいとちゃんと謝る。

送った人にも注意してそれを見ている人にも注意する
例えば「〇〇君がああやって投稿しているから注意するべきじゃ何かな」とか「〇〇君がああやって投稿しているからちゅういしてあげよう」とか言って注意してみる
そうじゃないともっとみなとが責められちゃうから

見つけたらそうゆうのよくないんじゃないと軽く注意する

振り返りの感想

- ・⑦の振り返りでは、当初のねらいであった「脱・傍観者」に関する感想は一部にとどまり、多くは「自分自身のSNSの使い方」に関するものだった。それでも、児童が自分ごととして捉えていた点は大きな学びであったと感じている。(手書き画像)

学習問題
人を傷ける可能性がある投稿を見つけたら
どうすればよい？
・いつもよりかんがえるのがむずかしかった。
・あらたにあらたらしいことがわかった。
・そもそもSNSって小学生にはまだはやいとおもった。
・やっぱりひとことひとことをかんがえる。

かんそう
SNSは相手の気持ちがわからないか
大変なんだなと思いました。

⑦
人を傷つける可能性がある投稿を見つけたら
どうすればいい？
声をかける事が大事だと思います。こういう使い方は
よくないと思いました。言葉やマークなどの使い方も
今日学べたと思います。今後このようなことが起きたら
今日の学習を生かしていきたいです

感想

わたしは「SNSには人のことについての自分の
思い」ではなく、「みんながやるきをもてる」
「今日自分がかんがえたこと」を投稿する
ほうがよいことがわかりました。

かんそう
自分がいいなと思って、いろんな人の気持ちを
考えるといいなと思いました。「ダメ」だと思ったら、
ほとがないて、こうどうする会で伝えればいいと思い
ました。自分がかんがえると思って、いやな人もいるかも
しれないと思いました。

今日は、SNSについてまなび
ました。声をかけてあやまったり
そんなとうこうなとしても自分が
かんがえるとうこうといっても思ひが
うはうそうもすればそれはいいじめ
よるからとうこうにはきをつけよう
おもった。

⑦
この学習を通して、ラインの使い方を
あらためて見直します。
かこのりれきをみて、やばい言い、
てたら電話か言葉きせいであたる。

・自分がいいと思っても他の人が
どう思うかを考えてから、とうこうそ
うだし、発言も行動もしたほう
うがいいと思いました。
・やっぱり、相手の気持ちを考える
ことはすごく大事ななんだな
と思いました。

⑦
ミナトはみんなをいじめま
としてSNSにとうこうして
でもみんなはカズマをせめ
ているかんじがして大さあざ
になていたから、もし自分か
げまとうこうをするなら謙
に気をつけてとうこうすること
にします。